

共同声明

- 2019年7月13日上智大学において、シンポジウム「日本のアフリカ研究を総覧する」(TICAD7パートナー事業)が開催された。山極壽一京大総長の基調講演の後、13の大学・研究機関がそれぞれのアフリカ研究について紹介した。その後、外務省、JICA、NGOでアフリカに関わる実務家とともに、日本のアフリカ研究の特長や課題、研究と実務の関係などについて話し合った(プログラム別添)。
- シンポジウムでは、日本のアフリカ研究が世界的に見て高い水準にあり、フィールド研究を重視するなど独自の特質を持つことが確認された。また、各機関が研究と並んで人材育成に大きな努力を注いでいることが示された。
- アフリカ研究の多様性とその意義について指摘された。紹介された日本のアフリカ研究のなかには、アフリカの課題解決に資する研究もあれば、アフリカを理解するための研究やアフリカから学ぶことを問題意識に据えた研究もある。こうした多様性は、日本のアフリカ研究の裾野の広さと可能性を示している。
- 「持続可能な開発目標」(SDGs)に代表される今日的課題に対応するには、分野を超えた協働が必要だという点が強調された。日本のアフリカ研究ではこれまでも文系、理系の枠を超えた協働が図られてきたが、今後も一層推進される必要がある。加えて、研究者と実務家の協働を推進する必要性についても指摘された。

シンポジウムでの議論を踏まえて、今後アフリカ研究を発展させていくために、次の点が重要だと認識が得られた。

1. 分野・セクターを超えたネットワークの構築

日本のアフリカ研究者はこれまでもアフリカの人々、特に研究者との間でネットワークを構築してきた。今後はこのネットワークをより強め、研究分野を超えて広げるとともに、政策担当者や民間部門など実務者との間にも拡大させるべきである。こうしたネットワークは、日本とアフリカ諸国が相互の理解を深め、互いの課題を解決し、そしてさらに関係を深めるために不可欠の基盤を提供する。

2. 人材育成

SDGsなど今日的課題達成のために人材育成の必要性は喫緊であり、日本の大学と研究機関はそこで積極的な役割を果たすべきである。アフリカ研究の成果を活かし、アフリカで、また日本で人材育成に取り組む必要がある。特に、アフリカ人留学生が帰国後にどの分野で活躍しているかを調査し、具体的な人材育成の場を創出することが重要である。

以上。

シンポジウム「日本のアフリカ研究を総覧する」プログラム

2019年7月13日(土) 13時~18時

於：上智大学四谷キャンパス 10号館講堂

12:30 開場

13:00~13:10 趣旨説明：眞城百華（上智大学アジア文化研究所、総合グローバル学部）

13:10~14:00 基調講演：山極壽一 京都大学総長

14:00~15:00 大学・研究機関によるアフリカ研究の紹介（各大学・機関 10分）

- ① 秋田大学：川村洋平・国際資源学研究所・教授
- ② 九州大学：渡邊公一郎・国際担当副理事、留学生センター長、工学研究院教授
- ③ 京都大学：高橋基樹・アフリカ地域研究資料センター・副センター長、
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
- ④ 国立民族学博物館：飯田卓・人類文明誌研究部・教授
- ⑤ 上智大学：矢澤達宏・アジア文化研究所、外国語学部ポルトガル語学科・教授
- ⑥ 筑波大学：森尾貴広・国際室・教授

15:00~15:15 休憩

15:15~16:25 大学・研究機関によるアフリカ研究の紹介（各大学・機関 10分）

- ⑦ 東京大学：遠藤貢・東京大学アフリカ地域研究センター・センター長
- ⑧ 東京医科歯科大学：岩永史朗・医歯学総合研究科・国際環境寄生虫病学・教授
- ⑨ 東京外国語大学：武内進一・現代アフリカ地域研究センター・センター長
- ⑩ 長崎大学：金子聰・アフリカ海外教育研究拠点長、熱帯医学研究所教授、
熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授
- ⑪ 日本貿易振興機構アジア経済研究所
：福西隆弘・地域研究センターアフリカ研究グループ・グループ長
- ⑫ 弘前大学：曾我亨・企画担当副理事、人文社会科学部・教授
- ⑬ 北海道大学：奥村正裕・国際連携機構アフリカリサーチオフィス所長
大学院獣医学研究院・教授

16:25~16:35 休憩

16:35~17:55 総括ディスカッション「SDGsの時代におけるアフリカ研究」

- パネリスト：太田至（日本アフリカ学会会長）
奥村正裕（日本・アフリカ大学連携ネットワーク議長校代表）
紀谷昌彦（外務省 TICAD 担当大使）
加藤隆一（国際協力機構アフリカ部長）
津山直子（アフリカ日本協議会代表理事）

モデレーター：武内進一（東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター）

17:55~18:00 閉会の辞 遠藤貢（東京大学アフリカ地域研究センター）

主催：京都大学アフリカ地域研究資料センター、上智大学アジア文化研究所、

東京大学アフリカ地域研究センター、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

後援：日本アフリカ学会、日本・アフリカ大学連携ネットワーク